



早い梅雨入り、不安定な天候にご注意ください

記録的に早い梅雨入り報道がされています。各地で水稻の初期生育・大豆の作付け・夏野菜や果樹類の収量・品質などに影響が出ることが予想され、油断ならない状況です。今後、長期間の多雨傾向、又は早期の高温期の訪れの双方に対し警戒が必要です。

梅雨時の土づくりと肥料はどうしたらいいの？

日照不足、多雨多湿、不安定な気温などで作物の生育が停滞する場合、ついつい肥料や薬剤を与えたくなるものです。ところが梅雨時は作物のために肥料（窒素）を与えても、むしろ逆効果になります。

- ①低日照や多雨多湿が続く梅雨時は光合成産物（糖）の絶対量が不足します。そのため窒素がタンパク質に代謝されないまま体内に蓄積し病気・害虫を呼び減収となります。
- ②余分な窒素は保肥力のある土では梅雨明け後の肥料のドカ効きの原因になり生産が不安定になります。（逆に保肥力の乏しい土では長雨での肥料流亡で、梅雨明け後の急激な肥え切れの発生の懸念があります。）

そこで、窒素は作物が代謝できる量を少しずつ与える肥培管理を徹底し、その上で少ない日照でも光合成を最大限に行うためにケイ酸・苦土・鉄の施用、弱りがちな作物の強化のためにリン酸・カルシウム・マンガン・ホウ素の施用が有効な対策となります。

なお、これら大切な各種ミネラルは根が元気でないと吸われません。排水対策をシッカリ行い、根を溺れさせないことが非常に大切です。発根促進を促す資材（育王）や根痛みがひどい場合は葉面散布剤の併用も有効です。

工場定期修理のお知らせ

6月7日～7月上旬頃（予定）の期間は修理期間の為、生産が一時停止いたします。弊社製品在庫のご確認をお願いいたします。



近日リニューアル予定 とれっちゃん

ミネラルをバランス良く含む土づくり肥料です。異常気象対策の土づくりに最適

「土づくりはコレでOK！」
収穫（とれ）るための
着実（ちゃくじつ）な一手！

